

## 事業報告書

【将来性を有する競技者の発掘育成活動助成】

助成事業細目	タレント発掘・一貫指導育成事業		
助成事業者名	公益財団法人日本卓球協会		
事業名	JOCエリートアカデミー選手及び有望選手 国際競争力育成事業		
事業実施期間	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日		
実施した事業の成果	JOCエリートアカデミー生及び全国の優秀選手を、海外にて合宿及び大会に出場させることにより、諸外国の同年代選手より遙かに高い国際競争力が身についたと。特記すべきは伊藤美誠選手で、同年代では世界ランキング1位はもちろんのこと、今年マレーシアで開催された2016世界卓球選手権大会の日本代表となり、レギュラーで試合出場、堂々の銀メダル獲得は国民も驚いた事だと思う。15才の彼女が活躍する裏にはライバルの早田ひな、浜本由惟、加藤美優という存在があり、みんなを分け隔て無く本事業で派遣・強化したことが伊藤美誠の強化にもつながったと確信している。		
実施した事業に対する評価	JOCエリートアカデミー生及び全国の中高生を、海外の合宿及び大会に出場させることにより、競技のみではなく国際人としての教養や知識が向上し、将来を担うアスリートの育成の一助となっている。また、卓球の評価はワールドランキングで行うのが一般的だが、男子は18才以下で上位から5位6位9位、女子は1位2位4位と素晴らしい位置にいる。この実力を維持し更に強化出来れば中国を倒しての世界王座の位置も遠くないものと考えている。		
		平成27年度目標	平成27年度実績
	延べ参加人数	150 人	129 人
	活動日数	262 日	259 日
	延べ指導者数	44 人	48 人
	各年代代表選手輩出数	14 人	14 人
実施した事業の内容	〔事業の詳細〕 海外での合宿及び大会参加事業を28回開催できた。合宿はJOCエリートアカデミー全員で行く合宿、男女別の合宿、個人で行かせる合宿と大きく3つに分けた。大会参加は大会初日の2日前には現地に着くようにし、現地選手との合同合宿を開催するようにしてきた。このことにより選手は外国選手に慣れ、国際人感覚も身につけてくれていると感じている。 また、本事業で臨時コーチとスパーリングパートナーの謝金等を支払って来た。卓球競技は多くの戦型やラケット・ラバーの違いもあり、国別の特徴も出る競技だ。多くの選手と練習することにより多彩な技術が身につく、急成長が期待できた。また、優秀な人材に臨時コーチをお願いする事により、選手の技術力は一気に国際レベルまでに引き上げられた。		
	事業の第三者への委任（委託等）の有無 <span style="float: right;"><input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無</span>		
	〔委任がある場合の内容〕		

# 事業報告書

【将来性を有する競技者の発掘育成活動助成】

助成事業細目	タレント発掘・一貫指導育成事業		
助成事業者名	公益財団法人 日本卓球協会		
事業名	全国ブロック別研修合宿		
事業実施期間	平成 27 年 9 月 4 日 ~ 平成 27 年 12 月 20 日		
実施した事業の成果	この研修合宿の特色は選手と指導者がセットで参加するところにある。選手と指導者の意識改革を促すことが、将来的にナショナルクラスに成長する選手の絶対数を増やす事に繋がっていくと考えている。近年卓球会では偏ることなく、全国から優秀なタレントが出現してきている。その選手の指導者は過去にこの研修合宿にさんかしているケースが増えてきている。本事業の大きな成果と考える。		
実施した事業に対する評価	概ね計画通り実施することができた。単に技術講習を目的とした合宿ではなく、心技体を併せ持った選手の発掘・育成をポイントに挙げている。参加者からも大きな経験となったと言う声が多数寄せられている。また、技術練習においては、ナショナルステージをスタンダードにした講習を行い、選手並びに指導者に対して大きな刺激を与えられた。		
		平成27年度目標	平成27年度実績
	延べ参加人数	253 人	253 人
	活動日数	12 日	12 日
	延べ指導者数	156 人	156 人
	各年代代表選手輩出数	3 人	0 人
実施した事業の内容	<p>〔事業の詳細〕</p> <p>Aブロック研修合宿「福岡県 フロム石田卓球場」11月6日～8日 参加選手52名                  Bブロック研修合宿「富山県 砺波青少年自然の家」9月4日～6日 参加者44名                  Cブロック研修合宿「福島県 郡山ユラックス熱海」10月2日～4日 参加者59名                  Dブロック研修合宿「東京味の素ナショナルトレーニングセンター」12月18日～20日 参加者98名</p> <p>主な研修内容                  技術指導基本練習・最新のプレーテクニック                  ジュニア期のフィジカルトレーニング                  コンディショニング指導・・・メンタル他                  栄養指導・・・日常の食事、大会期間中の食事、水分摂取等                  世界の戦術・技術（映像による指導）                  指導者の役割と指導方法                  フィジカルテストの実施</p>		
	事業の第三者への委任（委託等）の有無 <span style="float: right;"><input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</span>		
	〔委任がある場合の内容〕		

# 事業報告書

【将来性を有する競技者の発掘育成活動助成】

助成事業細目	タレント発掘・一貫指導育成事業		
助成事業者名	公益財団法人 日本卓球協会		
事業名	ホープス・カブ選手+指導者研修合宿		
事業実施期間	平成 28 年 2 月 26 日 ~ 平成 28 年 3 月 13 日		
実施した事業の成果	<p>この研修合宿の特色は選手と指導者がセットで参加するところにある。選手と指導者の意識改革を促すことが、将来的にナショナルクラスに成長する選手の絶対数を増やすことに繋がっていくと考えている。この研修合宿は、10才~12才までの選手を参加させ、早期教育の側面を併せ持っている。技術的には世界に通じる初期設定。その他メンタル・栄養等に関する意識付け。また今回はスポーツ整形のドクターに協力を得て、選手のエコー検査を実施、スポーツ障害の検診を取り入れた。また、JOCプログラムを男女講習に取り入れた。</p>		
実施した事業に対する評価	概ね計画通りに実施することができた。今回も昨年に引き続きドクターの検診（エコー診察、検診、問診）をプログラムに始めて取り入れた。結果は大きな障害や怪我の報告はなかった。参加指導者からも「ホッしました。」との声が寄せられた。特に近年、幼少期からプレーを始める傾向が高く、比例してスポーツ障害の発生が増えてきていることが医科学委員会からも寄せられている。講義では、指導者に対する障害への認識を中心に有意義な内容で行われた。その他、トレーニング講習（実践）やJOCプログラムについて好評であった。		
		平成27年度目標	平成27年度実績
	延べ参加人数	184 人	184 人
	活動日数	6 日	6 日
	延べ指導者数	112 人	112 人
	各年代代表選手輩出数	15 人	14 人
実施した事業の内容	<p>〔事業の詳細〕</p> <p>実施場所日時； 味の素ナショナルトレーニングセンター卓球専用場 平成28年2/26~2/28（女子） 選手34名、指導者58名 平成28年3/11~3/13（男子） 選手38名、指導者54名 「総計」184名</p> <p>研修内容； ①技術指導、基本技術の徹底プレースタイルを指導 ②フィジカルトレーニング…発育に合わせた指導 ③コンディショニング指導…栄養指導・メンタル指導 ④コーチングの指導…指導者に対してアドバイス ⑤体カテスト ⑥スポーツ整形診断…エコー検査、問診、検診 ⑦JOCプログラム…指導者向け子育て論</p>		
	<p>事業の第三者への委任（委託等）の有無 <span style="float: right;"><input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</span></p>		
	<p>〔委任がある場合の内容〕</p>		